



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第三一六号）

立春

二月四日

## 二十日正月

一月一日の大正月、十五日の小正月、そして二十日は新年の祝い納めといわれる二十日正月と呼ばれます。

二十日正月は、正月の魚の残りの骨で料理を作ったことから「骨正月」とも呼ばれます。

骨正月鰯の頭を刻みけり

野村喜舟

母の世の骨正月のうすあかり

宇多喜代子

正月用のお頭付の鰯もいよいよ頭まで食べつくすのでしよう。鰯は残り骨をかす汁にする地域もあるようです。また、正月料理を食べつくしたのは母親の時代と、「食品ロス」の現代とは隔世の感があります。

小正月に飾った餅花などや、片付け忘れているお正月飾り、お供えものなどもこの日に片付けるとされます。

私はこれまで二十日を節目とはしていませんでしたが、志摩市浜島町の女性は、母親の時代までは、お節料理のお煮しめ（煮しめ）の残ったゴボウやニンジンなどを小さく刻み、ご飯に混ぜたものや、小豆ご飯（赤飯）を炊いて神棚に供えたと教えてくれました。

また、年中玄関に飾るしめ縄以外に、正月に門口や台所などに新しく飾ったしめ縄は、二十日に海岸へ持っていき焼いたそうです。今では消防法などの関係でできないそうですが、かつては二十日を節目に新年の祝いを納めていたことがわかります。

暦は、立春。今度は新たな春を迎えます。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ ひなまつり

平安時代から受け継がれてきたひなまつり。

桃の花やかわいらしい飾りで彩られ、いつもより華やかになり心浮き立つおかげ横丁で桃の節句をみんなで祝い、女の子の健やかな成長を祈る催しを楽しんでください。

と き／2月22日(土)～3月3日(火)

10:00～17:00 (催しによって異なります)

ところ／おかげ横丁一帯

## ● 桃の節句市

かわいらしい雛人形や雛飾りの他、雛あられやひし餅などのひな菓子を揃えた市です。女の子の節句にふさわしい色とりどりの商品を集めました。

と き／2月15日(土)～3月3日(火) 10:00～17:00

ところ／赤福別店舗

## ● お雛さまに大変身

お雛様やお内裏様の衣装で記念撮影ができる毎年大人気の催しです。

と き／2月22日(土)～3月3日(火)

10:00～17:00 (16:30受付終了)

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

料 金／1,000円 (特製台紙付き写真プレゼント)

五十鈴塾

## ○ 旅する神々⑥～邇々芸命、天孫降臨のその後～

『古事記』には、脈絡が通じない話がでてきます。高天原で天津神々が葦原中つ国を国譲りするよう求めたところで、出雲国の大国主命に交渉し、それを成します。ところが、天津神が国を治めんとして天降るのは、日向の高千穂峰。邇々芸命が天降るのですが、それを迎えるのが阿邪訶(三重県)に居る猿田毘古(女名は、猿女君)です。以来、三代が過ぎて、カムヤマトイワレビコ(じつは、神武天皇)が大和に向かって旅に出るのです。「そうか、高天原では葦原中つ国は大和を中心とした連合国とみていたのか、そして、神がヒトに変わるまで待っていたのか、」とここにいたってわかるのです。

と き／2月10日(月) 18:30～20:00

講 師／神崎 宣武(民俗学者・五十鈴塾塾長)

参加費／一般1,650円 会員1,150円

ところ／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

はる おとず  
春の訪れ

ういろう

外郎の生地で、こし餡を柔らかく包みました。  
春の霞に浮かぶ、ほの紅い、梅の花を思わせるかのようです。

しら たまつばさ  
白玉椿

山芋を使った生地で、こし餡を包み、この時季の風情を讃えた、  
早咲きの白玉椿に見立てました。

そうしゅん  
早春

こし餡のそばろと、粒餡の羊羹の間に、若草色の白餡そばろを  
重ね、土の中から草の芽が顔を出す様子を表しました。